

# 令和5（2023）年度 中部環境パートナーシップオフィス運営業務 年間報告書

## ■ 概要版 ■

※掲載したデータは全て2024年3月18日時点集計。

### ■ 業務実施計画の作成

- 令和5年度業務実施計画等を作成し、EPO 中部ウェブサイト及び中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトに掲載、公開した（<https://www.epo-chubu.jp/about/target>）。

### ■ ESD/EPO 運営委員会の設置・開催

- 下記の通り、2回の会議を開催し、EPO 業務・ESD 業務について意見交換及び諮問を行った。

会議		開催日	主な議事等
ESD/EPO 運営委員会	第1回会議	6月16日 オンライン	運営委員会設置要領について／2023年度業務実施計画について／EPO・ESD業務の事務局案について
	第2回会議	2月6日 オンライン	2023年度に実施したEPO・ESD業務について

### ■ 基本業務

#### ■ ホームページの更新及び維持管理

	URL	年間更新回数・計	年間アクセス数(ページビュー数) 単位:件				
			2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
EPO 中部ウェブサイト	<a href="http://www.epo-chubu.jp">http://www.epo-chubu.jp</a>	606回	28,179	31,134	32,185	※ 501,670	※ 860,157
中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト	<a href="https://chubu.esdc-enter.jp">https://chubu.esdc-enter.jp</a>	285回	11,249	10,948	13,575	13,132	12,251

※ 2020年度に実施したEPO 中部ウェブサイトのリニューアルの際に、アクセス数の照会元をGoogleアナリティクスに移行。(従来の照会元であるサーバー会社によるアクセスレポートが特殊なシステムでページビュー数を集計していたため、一般的なページビュー数を把握できるGoogleアナリティクス参照に変更した。)上表中の※印の数値は、サーバー会社のアクセスレポートによるデータである。

#### ■ 収集・整理・蓄積した情報の発信

- 毎月1回メールマガジンを発行しており、配信済みのバックナンバーを EPO 中部ウェブサイトに掲載している。  
(<https://www.epo-chubu.jp/mail-magazine>)

	年間配信記事数・計	今年度配信したメルマガ記事数				
		冒頭部 (EPO 関係記事等)	イベント 関連	ツール・コン テンツ	助成金・ 表彰等	その他
2023年度に配信メルマガ (毎月第2火曜日発行)	353	39	140	30	123	21

#### ■ 照会・相談対応（年間合計件数）

照会・相談対応						対話の体制の構築		照会・相談 対応の延べ 件数 + 対話の体制 の構築件数
相談に対し支援 対応を行った案件 の事例件数 <sup>※1</sup>	照会・相談対応等 の延べ件数	来館件数 延べ 件数 <sup>※2</sup>	資料配架依 頼等	相談・照会、 会議利用	メール・電話に よる相談(広報 依頼等)延べ件 数 <sup>※2</sup>	会議・セミナー等 地域活動への招聘	その他打合せや地 域主体との意見交 換等	
38	239	78	38	40	161	24	116	379

※1) 事例件数: 最初の連絡から対応終了までの(その間の連絡・打合せ等を含めた)案件ごとにカウントした数。

※2) 延べ件数: 同じ案件・用件での来館、メール・電話等であっても、個別に回数をカウントした数。

#### ■ 施設・設備の維持管理（年間施設利用件数）

業務実施日数	開館日数	来館者数	来館件数	メール・電話による 問合せ件数
249日	228日	150人	77件	161件

# 協働取組の促進のための業務

## 2023 年度に主催したローカル SDGs／地域循環共生圏がテーマのイベント・会合等

催事名	エリア	設営	開催日	参加者	実施内容等
地域循環共生圏フォーラム in HOKUSEI「北勢エリアで“循環”の輪を広げよう！」	三重県北勢エリア	リアル	2月16日	会場参加 61 人	一般社団法人ネクストステップ研究会と共催で、地域課題・資源、地域ビジョン共有ワークショップを実施。
ローカル SDGs／地域循環共生圏セミナー「ローカル SDGs の指標と達成度評価」	(中部)	リアル	11月6日	会場参加 19 人	自治体職員を対象にした勉強会として実施。EPO 中部の「SDGs 指標物語」と「活動見える化プログラム」も紹介。
協働コーディネーターとの情報・意見交換会	(中部)	リアル	9月1日	会場参加 11 人	協働コーディネーターの近況報告、地域活動の課題等について意見交換などを実施。
食育と農による持続可能な地域づくりを考えるワールドカフェ	長野県長野市	リアル	1月13日	会場参加 16 人	市民による食と農のコミュニティ形成事例をシェア、及びネットワーク形成を目指したワークショップを実施。
地域の取組を聞きながら「持続可能な社会・地域づくり」を考える	茅井地区	リアル	2月4日	会場参加 18 人	いもいりビングらぼ「草刈りバスターズ養成事業」や他地区・企業等の事例学習等を実施。
令和5年版環境白書を読む会及び学生との意見交換	(中部)	ハイブリッド	7月1日	会場学生、オンライン参加 121 件	第1部で環境白書を読む会、第2部で会場：東海学園大学学生と中部地方環境事務所とのディスカッションを実施。



地域循環共生圏フォーラム in HOKUSEI「北勢エリアで“循環”の輪を広げよう！」



ローカル SDGs／地域循環共生圏セミナー「ローカル SDGs の指標と達成度評価」

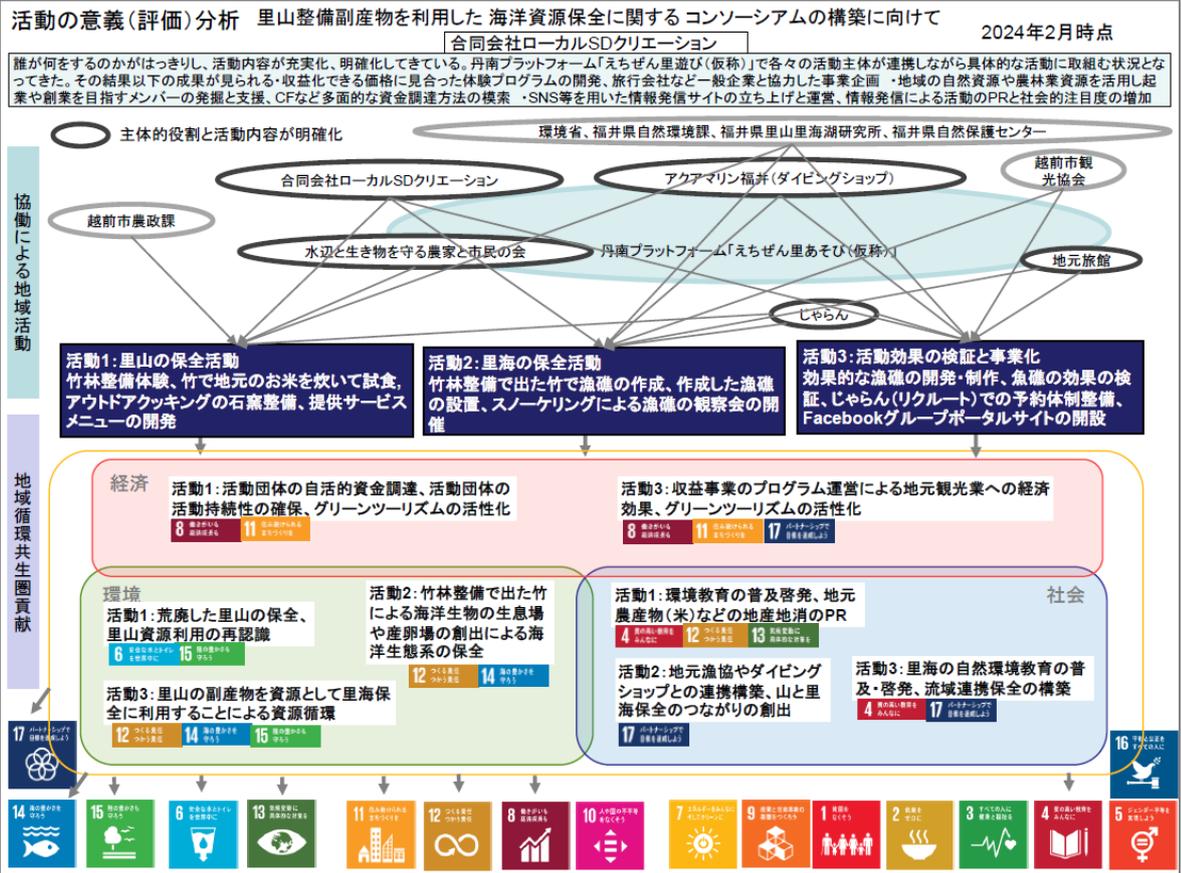


令和5年版環境白書を読む会、及び学生との意見交換

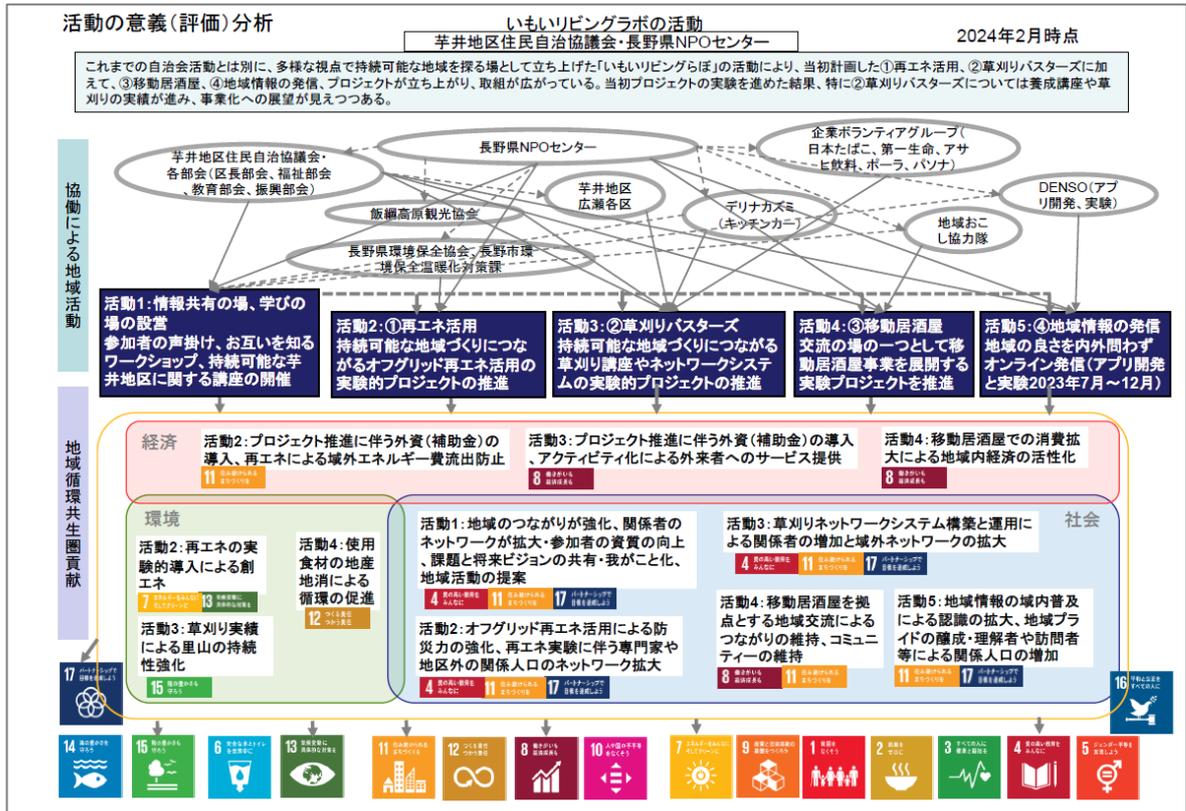
## 活動主体へのフィードバック（活動見える化プログラムの活用）

- EPO 中部が支援・連携実施した取組を対象に、独自ツール「活動見える化プログラム」の分析チャート図を作成し、各団体へのフィードバックを行った。

### 【作成した活動見える化チャート】PF丹南：ローカル SD クリエーションによる里山里海保全活動



## 【作成した活動見える化チャート】長野県 NPO センター等の事例「いもいりビングらぼの取組」



## ■ 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

### ■ 地域プラットフォームの環境整備支援等業務

- 地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業の採択団体への支援として、事業着手にあたってのヒアリング実施と、ヒアリング結果をもとにした支援計画シートの作成、各団体が主催するステークホルダーミーティングの実施支援などを行った。
- 11月に中部ブロックの中間共有会をEPO中部主催で開催し、中部の採択団体(2団体)、卒業団体(1団体)による取組状況等の報告会を行った。
- このほか、卒業団体の一つ「一般社団法人スマート・テロワール協会」を対象にしたフォローアップ調査を12月に実施し、その内容を取りまとめたヒアリング結果シートを作成し、全国事務局へ提出した。

### 【事業着手時ヒアリングの実施】

活動団体名	実施日/場所	ヒアリング項目
ローカルSDクリエイション (PF丹南) (福井県丹南地区)	2023年4月26日/福井市地域交流プラザ 研修室 (福井県福井市)	Q.: 本事業を通じて、形成するプラットフォームのイメージとは? Q.: 今年度の取り掛かり、何をどこまでやるか? Q.: 今年度のイベント等の予定(※ステークホルダーミーティング含む)
荒山林業 (PF大町) (長野県大町市)	2023年4月27日/長野県大町合同庁舎 (長野県大町市)	Q.: 事業を進める上での課題とそれを解決するための方策などは? Q.: 事業を進めるにあたっての協力者・ステークホルダーは?

### 【活動団体主催ステークホルダーミーティングの実施支援】

活動団体名	実施日/場所・方法	EPOが実施した支援等
ローカルSDクリエイション (PF丹南)	2024年2月1日/白山さんち (福井県越前市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ ディスカッション用の各種ツールの準備</li> <li>▪ 当日にオブザーバー参加、ディスカッションで出てきた意見・アイデアの整理・まとめ</li> </ul>
荒山林業 (PF大町)	2024年2月17日/オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 共催及びステークホルダーミーティング実施にあたっての留意事項などを協議・連絡</li> <li>▪ 当日にオブザーバー参加</li> </ul>

### 【中間共有会の開催】

区分	実施場所	設営	開催日	出席者	実施内容等
PF事業中間共有会(中部ブロック会合)	福井県越前市	リアル	11月9日~10日	会場参加 24名	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ PF事業採択団体(中部2団体)による取組の中間報告会として実施。</li> <li>▪ 2日目には、PF丹南の案内で、活動関係施設等を視察。</li> </ul>



- 2023年11月9-10日に、PF事業の中部ブロック中間共有会を福井県越前市で開催。計24名が出席。
- 2活動団体による取組報告のほか、出席者を交えた意見交換などを実施。
- 2日目にはエクスカーショとして、PF丹南の活動に関連する施設・場所を見学する視察を実施。

会議の休憩時間でコーヒーブレイクを兼ねた交流タイムを設定

2日目はPF丹南の活動関係地を視察するエクスカーショを実施

## ■ 身近な自然資本活用に関する意見交換会の開催

催事名	設営	開催日	参加者	登壇者・実施内容等
信州の森・里山フォーラム 「地域資源としての森林・里山の価値向上について考える」	ハイブリッド 会場：長野県 長野市内	12月 19日	会場参加 25人 オンライン 参加 70件	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東急リゾーツ&amp;ステイ、トビムシ、フォレストデザイン、中部電力による取組紹介</li> <li>● 関係機関として林野庁中部森林管理局、長野県が中部地方環境事務所と共に登壇</li> </ul>
企業の生物多様性保全の取組についての勉強会	ハイブリッド 会場：愛知県 名古屋市内	1月 26日	会場参加 41人 オンライン 参加 91件	<ul style="list-style-type: none"> <li>● EPOC 共催の勉強会として実施</li> <li>● 自然共生サイト認定審査委員の有識者2氏による基調講演</li> <li>● 自然共生サイト事例：サイト認定企業 5社(リコー、テクノ中部、人間環境大学、トヨタ自動車、シヤチハタ)による取組発表</li> </ul>



- 12月9日に、長野県長野市で信州の森・里山フォーラム「地域資源としての森林・里山の価値向上について考える」を開催。
- 林業従事者ではないが、森林の価値向上と地域づくりに取り組む企業・活動者に登録してもらい、新しい森林・里山のあり方、活用方法について取組紹介いただいたほか、「森のあり方＝地域のあり方」をテーマにしたディスカッションを実施。
- 会場参加、zoom参加、YouTube視聴で合計95人・件の聴講があった。




- 1月26日に、環境パートナーシップ・CLUB (EPOC) 共催による「企業の生物多様性保全の取組についての勉強会」を、主にEPOC会員企業を対象に開催。
- 学識者による講演や、自然共生サイト認定企業5社のサイト事例の紹介のほか、学識者・認定企業と参加者による3テーマ(①里地里山の保全、②在来種の保全、③希少種の保全)別グループディスカッションを実施した。
- 会場参加、zoom参加、YouTube視聴(ライブ)で計132人・件が参加した。



## ■ グリーン社会実現に向けたステークホルダー連携促進事業

催事名	設営	開催日	参加者	登壇者・実施内容等
環境へのアプローチを活かした鳥羽の観光創発ミーティング	リアル 会場：三重県 鳥羽市内	1月 16日	会場参加 33人	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 協力：鳥羽市、鳥羽市温泉振興会</li> <li>● 扇芳閣、海女・フォトグラファーの大野氏が講演</li> <li>● 宿泊事業者等5社(鳥羽シーサイドホテル、鳥羽国際ホテル、戸田家、ジ・アース、鳥羽市リサイクルパーク)が取組発表</li> </ul>
地球温暖化に関する中部カンファレンス「水素・アンモニア実装に向けての中長期展望」	ハイブリッド 会場：愛知県 名古屋市内	2月 13日	会場参加 44人 オンライン 参加 105件	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 愛知県水素社会実装推進室、日本郵船、JERA が取組発表</li> <li>● 関係機関として経済産業省中部経産局、国土交通省中部地方整備局、環境省地球環境局が国の最新動向・情報を報告</li> </ul>
知多半島エリアの地域交通×脱炭素について考える	リアル 会場：愛知県 半田市内	3月 11日	会場参加 37人	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大同大学・樋口恵一先生、知多乗合株式会社(知多バス)、日本福祉大学・千頭聡先生が講演</li> <li>● 知多半島5市5町の環境・企画・交通等の担当部署職員が参加して地域交通の「もっど」をテーマにワークショップを実施</li> </ul>
※実施業務： 奥三河エリアの地域循環共生圏づくりの展開案の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 愛知県奥三河エリアで地域循環共生圏づくりに取り組む「奥三河エトレ」(構成団体：したらワークス、JA愛知東、三河の山里コミュニティパワー、設楽町)が主催する2024年2月14日開催のローカルSDGs 奥三河フォーラム『地域に経済を取り戻す』に出席し、奥三河エリアの地域循環共生圏づくりに関わる次年度(2024年度)以降の展開の提案資料を作成し、中部地方環境事務所へ提出した。</li> </ul>			

プログラム1/2	
<p><b>13:00</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>開会式</li> <li>挨拶</li> <li>懇話会</li> </ul> <p><b>13:30</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基調講演</li> <li>質疑応答</li> </ul> <p><b>14:00</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>懇話会</li> <li>閉会式</li> </ul>	<p><b>13:00</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基調講演</li> <li>質疑応答</li> </ul> <p><b>13:30</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>懇話会</li> <li>閉会式</li> </ul>

プログラム2/2	
<p><b>14:00</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基調講演</li> <li>質疑応答</li> </ul> <p><b>14:30</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>懇話会</li> <li>閉会式</li> </ul>	<p><b>14:00</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基調講演</li> <li>質疑応答</li> </ul> <p><b>14:30</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>懇話会</li> <li>閉会式</li> </ul>

- 1月16日に、鳥羽市、鳥羽市温泉振興会の協力を得て、鳥羽エリアの観光事業者による勉強会として「環境へのアプローチを活かした鳥羽の観光創発ミーティング」を開催。
- 宿泊施設・観光関係の事業者のほか、温泉振興会や市の職員など計33名が参加し、宿泊事業者等が取り組んでいる環境保全活動について学び、今後それらをどのように地域の中で展開させていくかについてディスカッションを行った。



14

- 知多エリア5市5町の自治体による地域交通×脱炭素をテーマにした勉強会を3月11日に開催。
- コミュニティバスをはじめとする公共交通機関の利用促進・向上により、知多エリアの脱炭素促進を目指し、公共交通機関の利便性向上のアイデアを出し合うワークショップを実施。



15

## 中部地方 ESD 活動支援センター業務

### 中部地方 ESD 活動支援センターの運営・推進

- 前年度策定の中部地域の「第6期 ESD 推進計画」をもとに、中部地方 ESD 活動支援センターの今年度業務実施計画を作成し、センター運営及び ESD 活動の支援・推進を遂行した。

### ESD 活動に関するネットワークの構築

催事名	設営	開催日	参加者	登壇者等
中部地方 ESD 推進ネットワーク地域フォーラム 地域と学校をつなぐ ESD	ハイブリッド 会場：愛知県 名古屋市	9月 21日	会場参加 17人 オンライン 参加 21件	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域 ESD 拠点を対象にしたフォーラムとして開催</li> <li>加藤 隆弘先生(金沢大学)、鬼頭学(緒川小学校)ほかによる話題提供、及び意見交換を実施</li> </ul>
SDGs 学生サミット	オンライン	2月 10日	オンライン 参加 85件	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs 関連活動に取り組む大学生チーム、SDGs 未来都市に選定された自治体が登壇、ディスカッションを実施</li> <li>伊藤恭彦運営委員会座長(名古屋市立大学)が総括コメント</li> </ul>
南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク ESD ダイアログ 2023 ～自然を活用する人づくり～	リアル 会場：長野県 伊那市内	11月 18日 ～19日	会場参加 41人	<ul style="list-style-type: none"> <li>南アルプスジオパーク関係者が集う対話の場として開催</li> <li>中部エリアのジオパーク関係団体が登壇・取組報告</li> <li>水谷瑞希運営委員(信州大学)の登壇による講演</li> </ul>

- 目的：ESD活動の情報共有と意見交換
- 時期：9月21日(木) 13:00～15:40 (ふりかえり交流～16:30)
- 対象：一般参加者、中部地方ESD拠点、関係ステークホルダー
- 開催方法：・ウイックあいち907会議室、ハイブリッド



参考) 中部の地域ESD拠点登録団体

- ①一般社団法人 長野県環境保全協会
- ②愛知ESDコンソーシアム
- ③名古屋ESDコンソーシアム
- ④「なご中環線大」実行委員会
- ⑤一般社団法人日本体験学習研究所
- ⑥東海エスエス協会
- ⑦一般社団法人ネクストステップ研究会
- ⑧石川エスエス協会
- ⑨岐阜県エスエス協会
- ⑩中部ESD拠点協議会 (信濃大学認定RCE Chubu)
- ⑪信州大学ESD推進協議会(信州大学ESD推進センター)
- ⑫長野県自然環境協議会
- ⑬長野県ESD推進協議会
- ⑭長野県ESD推進協議会
- ⑮長野県ESD推進協議会
- ⑯長野県ESD推進協議会
- ⑰長野県ESD推進協議会
- ⑱長野県ESD推進協議会
- ⑲長野県ESD推進協議会
- ⑳長野県ESD推進協議会



南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク ESDダイアログ 2023  
～自然を活用する人づくり～

2023年11月18日(土)～19日(日) @ 南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク

1日目 ESDダイアログ  
日時 11月18日(土) 13:30-16:30  
会場 伊那市立長谷中学校 5階 研修室

2日目 エクスカーション  
日時 11月19日(日) 9:30-14:40  
会場 JR伊那駅駅前

プログラム

第1部 基調講演  
「国立公園とジオパーク～自然の保全と活用の今」  
石橋岳志氏(環境省伊那自然保護官事務所)  
「自然資本を活かした地域創生とESD」  
水谷瑞希氏(信州大学教育学部助教)

第2部 活動報告  
伊那市長谷中学校の取組  
「地域で“食”を支える 過疎地の小規模農家の挑戦」  
伊那市長谷中学校2年生のみなさん

第3部 パネルディスカッション  
パネリスト  
立山県立ジオパーク 専門員 森内裕之  
白山学館立山ジオパーク 自然野 齋藤 亞陽  
南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク 小澤 恵理  
環境省伊那自然保護官事務所 石橋岳志  
コメンテーター  
信州大学教育学部助教 水谷瑞希

佐倉礼文氏(大鹿村教育委員会)

### 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供

催事名	設営	開催日	参加者	登壇者等
学び合いの場①「気候変動教育とは」	オンライン	8月 29日	オンライン 参加 35件	<ul style="list-style-type: none"> <li>白井信雄氏(武蔵野大)、佐藤真久氏(東京都市大)による講演</li> <li>中部大・古澤礼太氏、PEC とやま・塚勇人氏、アルマス・バイオコスモス研究所・水上聡子氏がディスカッション登壇</li> </ul>
学び合いの場②「気候変動教育の実践」	オンライン	9月 4日	オンライン 参加 33件	<ul style="list-style-type: none"> <li>中部大・古澤礼太氏、PEC とやま・塚勇人氏、アルマス・バイオコスモス研究所・水上聡子氏による話題提供</li> <li>大鹿聖公氏(愛知教育大学)がコメンテーターとして登壇</li> </ul>
実践セミナー 食べ物が変わる?! 気候変動と私たちの暮らし	リアル 会場：愛知県 常滑市内	11月 25日	会場参加 43人	<ul style="list-style-type: none"> <li>東海農政局、愛知県水産試験場、鬼崎漁業協同組合、杉山範子氏(東海学園大学)による話題提供</li> <li>古澤礼太氏(中部大学)がワークショップ企画構成</li> </ul>

区分	会場	設営	開催日	協議・検討事項等	構成メンバー
SDGs 社会教育研究ワーキング	①富山市 ②福井市 ③中部大	リアル	①6月14日 ②10月24日 ③11月24日	学び合いプロジェクトの検討、評価、ワーキングブック試行版内容検討、クローズ開催	中部大・古澤礼太氏、PEC とやま・塚氏、アルマス・バイオコスモス研究所・水上氏

# 実践セミナー(11月25日実施)



愛知県常滑市鬼崎漁港  
鬼崎漁業協同組合会議室

2023年11月25日(土)  
10:00~16:00



- 第1部 話題提供 食の変化と気候変動** 10:00~12:00
- 「森里川海からとれる食、気候変動でどう変わる?」  
井上俊樹氏 農林水産省東海農政局企画調整室長
  - 「伊勢湾三河湾の水産資源の移り変わり」  
植村宗彦氏 愛知県水産試験場漁業生産研究所主任研究員
  - 「農林水産業の現場から、鬼崎漁業組合」 平野正樹氏 鬼崎漁業組合参事
  - 「気候変動影響と適応対策」 杉山範子氏 東海学園大学教授
- 第2部 昼食と現地視察** 12:00~14:00  
~海苔養殖関連施設等の見学、昼食(各自実費支払)~  
コーディネーター: 古澤礼太氏 中部ESD拠点・サステナ政策塾
- 第3部 ワークショップ** 14:00~16:00  
「食」から学ぶ気候変動適応のSDGs地域づくり  
総合ファシリテーター: 古澤礼太氏 中部ESD拠点・サステナ政策塾

## 「中部版 ESD ワークブック」の作成・公表

- 中部地方ローカル SDGs を担う人材育成に役立つ ESD 情報ツールパッケージとして、「中部版 ESD ワークブック」を作成し、ウェブサイトで公開した。

## SDGs社会教育実践ツール「中部版ESDワークブック」の作成



- 3カ年度に渡り展開したESD学び合いプロジェクトの成果として有識者のWGの検討をもとに冊子「ESDワークブック」を2023年度に作成している。
- ミステリーワークショップ、ジグソー法ワークショップをはじめ、実践セミナーで実施したワーキングの方法などを掲載している。

### 【実施結果】

- 有識者で構成するWGを年3回開催。2023年度のWGでは企業、行政、市民団体でのESD普及のハードルを下げるためにペルソナワークショップ検討を実施。
- 外部の学識者の提言を受け、地域づくり=人づくりの観点から、「地域」を意識したESD展開を構成。
- 持続可能な社会のための人づくりのビジョンを示すためユネスコのキーコンピテンシーの概念を導入。
- ESD実践を具体的に手助けするため「人」、「こと」、「もの」、「金」の観点を導入した企画用ワークシートを掲載。
- 2023年12月9日全国フォーラムのパネル展示で見本を展示、好評を得る。

## ■ 教育現場の実態把握と連携強化

- SDGs の取組と ESD 実践の専門家、推進を目指す教育現場関係者、中小企業経営者等にヒアリングを実施し、連携強化と情報収集を行った。

ヒアリング結果の一部抜粋	
専門家	<p>○今後の ESD 推進に向けて重視していることや展望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ESD の実践の拡大はもちろんだが、できれば子どもの成長のエビデンスを集めていきたい。その客観的エビデンスは第一に子どもが「書ける」かどうか、その before、after の変化が重要と考えている。観察という方法もあるが計測者のバイアスがかかるため、評価としては書いてあるものがやはり重要。</li> </ul>
工業高校教頭	<p>○ESD、SDGs を推進するにあたっての課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 実業高校では現場で新しいことをやるということではなく、きっかけがあれば ESD として見直すことはできると言えるが、それよりも地域の課題に対して教育現場としていかに貢献できるかが大きいと感じている。</li> <li>■ 地域経営として持続可能性を維持することが大きな課題。そのために教育現場としてできることを考えていきたい。SDGs という時流に乗ることも一つの方法かもしれない。</li> </ul>
私立高校教諭	<p>○今後 ESD を推進するにあたっての課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 私立高校は生徒募集の面で、何ができるかという問題の中で、教科指導は学力を上げるためという点で、理念を考えるには現場に余裕がない。テストに対応できるかどうかととりあえず問題となる。</li> <li>■ ESD にたどり着けるかどうかがあやふやで、現場と乖離している。指導要領を読んでもわかりにくい。要求されているカリキュラムと指導要領の理念の整合性がわかりにくい。</li> </ul>
物流会社 人材育成担当者	<p>○取組で今後期待されること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自分で考えて、お金を稼ぐだけでなく自分で SDGs を感じて仕事ができることが理想だと思う。研修を通じて、会社の事業と SDGs の関係性を議論して、社内に広げることが今後期待していることである。これから SDGs の取組の基盤づくりをしたい。</li> </ul>
食品会社 経営者	<p>○SDGs を推進するにあたっての ESD の必要性について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ SDGs の目標を覚えるのではなく、誰一人取り残されず持続可能な社会をつくるという理念が大切である。しかし子供のうちに「いたわり」など人間が本来持たなければいけない資質を育む「徳育」がおろそかになっていると考える。そのためには大人が時間をかけなければいけないのではないかと。</li> <li>■ 当社の地域活動で重視している「食育」では、地域、企業、子供が一緒になって学ぶということを行っている。障害者、お年寄り、子供たちなど、社会的弱者を交えて、様々な人々が「結びつく」ことができるようになるということがここでの教育(ESD)の本質ではないかと。</li> </ul>

## ■ ESD/EPO の行事を通じた行動変容の把握

### ■ 代表的な行事後の行動変容の把握

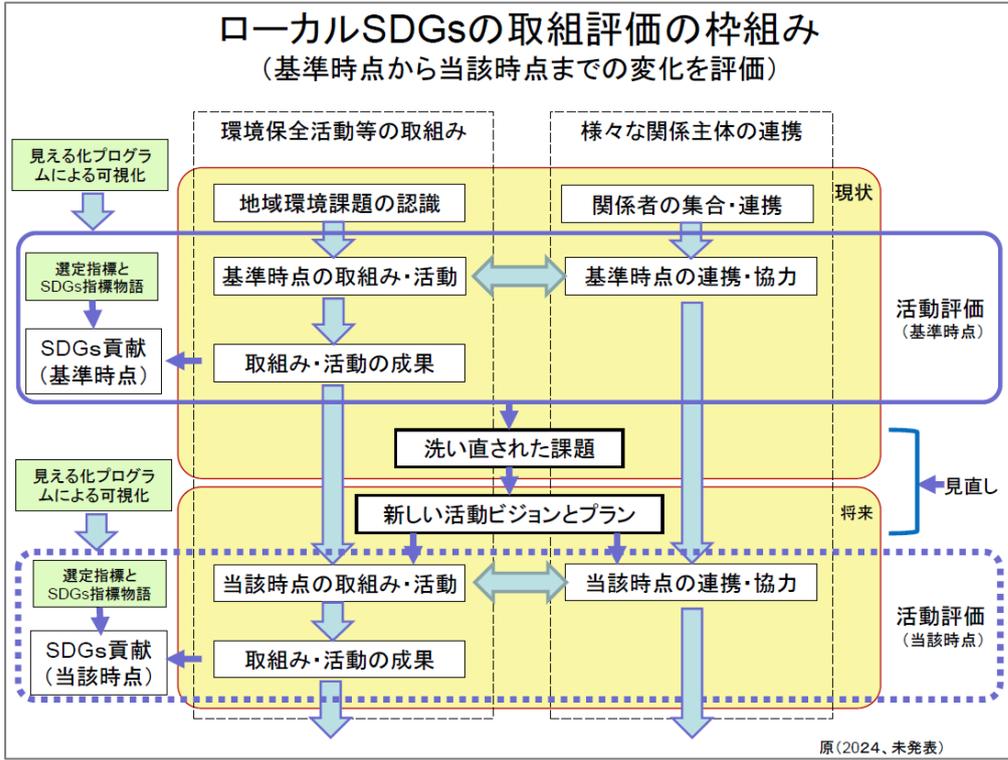
- 主催イベント等で共催、企画協力等した主体を対象に、イベント等実施の成果となる参加者や関係者等のその後の行動変容について把握する簡易ヒアリング調査を実施した。

業務 対象	2024年1月16日開催・環境へのアプローチを活かした鳥羽の観光創発ミーティング 鳥羽市役所観光商工課観光係、鳥羽市温泉振興会
内容 ・ 結果	<p>さっそく参加された方からは、現地で事業者同士の交流が生まれ、今後の鳥羽市における観光創発に向けたプロジェクトを始動したいという意見が出ています。</p> <p>【参加者の声(一部を抜粋)】</p> <p>他施設の皆様の発表内容は当社として非常に興味深く、早速に社内で共有して今後に生かせればと考えております。皆さんの取り組みをお聞きして、改めて鳥羽市は業界の垣根を超えた関係づくりからつながる資源の保護、一歩先を進んでいると感じました。自分のいる地域のことを見つめ直すきっかけになりそうです。</p>
業務 対象	2023年11月18日～19日開催・南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク ESD ダイアログ 2023 伊那市商工観光部観光課エコパーク・ジオパーク推進係
内容 ・ 結果	<p>参加したジオガイドは ESD という言葉を初めて知ったと聞いている。ジオパークを案内する上で ESD の要素があることがわかったことで、例えば来年度伊豆で行われる全国大会で ESD がテーマになるときに南アルプスジオパークの話ができる下地ができたと思われる。</p> <p>事務局として、ジオパークエリアに関係する他の市町村などで行われている ESD の様子がよく分かった。今後松本大学が飯田市で連携している事業と協働したり、伊那市内でも長谷中学校と連絡を取るようになったので連携した事業を検討したい。</p>
業務 対象	2024年2月16日開催・地域循環共生圏フォーラム in HOKUSEI「北勢エリアで“循環”の輪を広げよう！」 一般社団法人ネクストステップ研究会
内容 ・ 結果	<p>問題をいかに自分ごととして捉えることができるか。ESD のお手本になる方々(勉強させていただきました)の集まりだったと感じます。</p> <p>“サステナブルな社会を目指して行動できる人を増やす教育”重要課題だと改めて感じます。今回のフォーラムは傍観者から当事者への意識作りがわかりやすかったため、同じ内容で参加者未成年限定フォーラムも開催できれば新しい発見ができそうです。</p>

(ほか4件/計7件のヒアリングを実施)

# 地域循環共生圏及びローカル SDGs 実践状況等の評価

- ローカル SDGs 実践状況等の評価指標ツールの作成業務として、EPO 中部では第6期3カ年度で「SDGs 指標物語」の構築に取り組み、試行的に2事例で実践活用を行った。



## 【試行的な実践事例 (2 事例)】

### 事例①：合同会社ローカル SD クリエーション (PF 丹南) による里山保全活動

里山整備副産物を利用した海洋資源保全に関するコンソーシアムの構築  
活動評価 2022年3月～2024年2月

環境省 EPO 中部 2024年2月29日

評価の視点1：関係主体の変遷による協働と活動の推進  
【2022年3月時点のまぐら】思い描いていた段階であり、具体的な役割は明確ではなかった。

【2024年2月時点の状況】当所比、誰が何をやるのかははっきりし、活動内容が充実化、明確化してきている。丹南プラットフォーム「えちぜん里遊び (仮称)」のビジョンが共有され各々の活動主体が連携しながら具体的な活動に取組む状況となってきた。

評価の視点2：選定指標による評価  
小規模とはいえ、各指標とも順調に増加している。

	活動1	活動2	活動3
名称	里山の保全活動	里海の保全活動	活動効果の検証と事業化
活動内容	竹林整備体験、竹で地元のお米を炊いて試食、アウトドアクッキングの石窯整備、提供サービスメニューの開発	竹林整備で出た竹で漁獲の作成、作成した漁獲の設置、スノーケリングによる漁獲の観察会の開催	効果的な漁獲の開発・制作、魚獲の効果の検証、じゃらん(リクルート)での予約体制整備、Facebookグループポータルサイトの開設
貢献分野	【環境】	【環境】	【社会】
採用指標	個人竹林境界整備延長 (m)	漁獲の設置数 (箇所)	体験プログラムの参加者数 (人)
指標	6.6.1, 15.1.1	14.2	8.9.1
ターゲット	6.6, 15.1	G14	8.9
目標	G6, G15	G14	G4
基準 2022年3月	0m	5基	0人
評価 2024年2月	総延長 120m	計 23 基 (2022 年度 10 基、2023 年度 13 基)	計 33 人 (2022 年度 15 人、2023 年度 18 人)

合計 43,500 円 (地元旅館 32,000 円、水辺の会 11,500 円) 修学旅行参加を除く

評価の視点2：選定指標による評価 (詳細表)

	活動1	活動2	活動3
名称	里山の保全活動	里海の保全活動	活動効果の検証と事業化
活動課題	モウソウチク林の拡大による里山の荒廃	里海の水産資源の生息場の減少	竹の漁獲としての効果の検証体験プログラムの開発
活動内容	竹林整備体験、竹で地元のお米を炊いて試食 (モニタープログラムの実施)、アウトドアクッキングの石窯整備、提供サービスメニューの開発	竹林整備で出た竹で漁獲の作成、作成した漁獲の設置、スノーケリングによる漁獲の観察会の開催	効果的な漁獲の開発・制作、魚獲の効果の検証、じゃらん(リクルート)での予約体制整備、Facebookグループポータルサイトの開設
地域循環共生圏貢献	【環境への貢献】	【環境への貢献】	【社会への貢献】
地域循環共生圏貢献内容	荒廃した里山の保全、里山資源利用の再認識	竹林整備で出た竹による海洋生物の生息場や産卵場の創出による海洋生態系の保全	収益事業のプログラム運営による地元観光業への経済効果、グリーンツーリズムの活性化
採用指標	個人竹林境界整備延長 (m)	漁獲の設置数 (箇所)	体験プログラムの参加者数 (人)
貢献 SDGs 指標	6.6.1 水関連生態系範囲の経時変化、15.1.1 土地全体に対する森林の割合		
貢献 SDGs ターゲット	6.6 山地、森林、湿地、河川、帯水層、湖沼を含む水に関連する生態系の保護・回復を行う。15.1 森林、湿地、山地及び乾燥地をはじめとする陸地生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの保全、回復及び持続可能な利用を確保する。	14.2 2030 年までに、海洋及び沿岸の生態系に関する重大な悪影響を回避するため、強靱性 (レジリエンス) の強化などによる持続的な管理と保護を行い、健全で生産的な海洋を實現するため、海洋及び沿岸の生態系の回復のための取組を行う。	4.7 2030 年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、(略) 持続可能な開発への貢献の理解の学習を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。
貢献 SDGs ゴール	G6: すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する G15: 陸地生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の防止・回復及び生物多様性の損失を防止する	G14 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する	G4 すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
基準 2022年3月	0m	5基	0人
評価 2024年2月	総延長 120m	計 23 基 (2022 年度 10 基、2023 年度 13 基)	計 33 人 (2022 年度 15 人、2023 年度 18 人)

合計 43,500 円 (地元旅館 32,000 円、水辺の会 11,500 円) 修学旅行参加を除く

## 事例②：長野県 NPO センター等（長野県長野市）による「いもいりビングラボ」の取組

いもいりビングラボの活動 活動評価案 2022年10月～2024年2月  
 案作成：環境省 EPO 中部 2024年2月5日

評価の視点1：関係主体の変遷による協働の推進  
 【2022年10月時点の状況】「いもいりビングラボ」が立ち上がり二つの実験プロジェクトが開始した。

【2024年2月時点の状況】当初の二つの実験プロジェクトの関係団体が拡大明確化し取組が推進されるとともに、新たに二つの実験プロジェクトが立ち上がり開始した。

評価の視点2：選定指標（活動1、2、3（2023年1月選定））による評価  
 活動2①再エネ活用は2023年度は中断したが、リビングラボでの実験プロジェクトは2件増加した。  
 また活動3②草刈りバスターズは活動が拡大し、受講料は日当たりの経済効果も認められる。

活動1	活動2	活動3	
名称	活動1 情報共有の場、学びの場の設置	活動2 実験の場の設置①再エネ活用	活動3 実験の場の設置②草刈りバスターズ
活動内容	参加者の声掛け、お互いを知るワークショップ、持続可能な羊井地区に関する講座の開催	持続可能な地域づくりにつながるオフグリッド再エネ活用の実験プロジェクトの推進	持続可能な地域づくりにつながる草刈り講座やネットワーキングの実験プロジェクトの推進
実施分野	【社会】	【環境】	【社会】
採用指標	情報共有や学びの場の参加人数(人)、課題解決の地域活動実験プロジェクト提案数(件)	再エネ実験設備設置数(ヶ所)、活用した再エネ容量(kWh)	実験提供者数(人)、波及種数(ヶ所)による草刈り面積(平方m)
実績指標	72.1		
実験グループ	4.4、11.3、17.2	7.2、13.3	4.4、11.3、17.2
実績グループ	4、11、17	7、13	4、11、17
2022年10月時点で	参加者数 80人 実験プロジェクト 2件	3ヶ所	66人 約 200 ㎡
上記から2024年2月まで	参加者数 40人 実験プロジェクト 4件	中断	約 600 ㎡ 受講者数 9人 イベント参加者数 28人
			受講料 22,500円 当日 51,000円
			受講料 13,500円 当日 84,000円 補助金 1,618,000円

活動2	活動3
<p>活動2①再エネ活用</p> <p>実験の場の設置①再エネ活用</p> <p>持続可能な地域づくりにつながるオフグリッド再エネ活用の実験プロジェクトの推進</p> <p>活動2①再エネ活用</p> <p>持続可能な地域づくりにつながるオフグリッド再エネ活用の実験プロジェクトの推進</p> <p>活動2②草刈りバスターズ</p> <p>持続可能な地域づくりにつながる草刈り講座やネットワーキングの実験プロジェクトの推進</p> <p>活動2③草刈りバスターズ</p> <p>持続可能な地域づくりにつながる草刈り講座やネットワーキングの実験プロジェクトの推進</p> <p>活動2④草刈りバスターズ</p> <p>持続可能な地域づくりにつながる草刈り講座やネットワーキングの実験プロジェクトの推進</p> <p>活動2⑤草刈りバスターズ</p> <p>持続可能な地域づくりにつながる草刈り講座やネットワーキングの実験プロジェクトの推進</p>	<p>活動3</p> <p>実験の場の設置②草刈りバスターズ</p> <p>持続可能な地域づくりにつながる草刈り講座やネットワーキングの実験プロジェクトの推進</p> <p>活動3①草刈りバスターズ</p> <p>持続可能な地域づくりにつながる草刈り講座やネットワーキングの実験プロジェクトの推進</p> <p>活動3②草刈りバスターズ</p> <p>持続可能な地域づくりにつながる草刈り講座やネットワーキングの実験プロジェクトの推進</p> <p>活動3③草刈りバスターズ</p> <p>持続可能な地域づくりにつながる草刈り講座やネットワーキングの実験プロジェクトの推進</p> <p>活動3④草刈りバスターズ</p> <p>持続可能な地域づくりにつながる草刈り講座やネットワーキングの実験プロジェクトの推進</p> <p>活動3⑤草刈りバスターズ</p> <p>持続可能な地域づくりにつながる草刈り講座やネットワーキングの実験プロジェクトの推進</p>

## 関係主体との連携及び協働に関する業務

- 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換**
  - 中部地方環境事務所の担当官との定期的な打合せを毎月(計12回)実施し、業務の進捗状況、方向性などについて協議を行った。
  - 日々の業務について、毎月、所定の様式の報告書を作成し、中部地方環境事務所へ提出した。
- 外部評価委員会への対応**
  - 自己評価シートを作成し、中部地方環境事務所へ提出した。
- 全国ユース環境活動発表大会への参画**
  - 全国ユース環境活動発表大会実行委員会(環境省/独立行政法人環境再生保全機構/国連大学サステナビリティ高等研究所)が主催する「全国ユース環境活動発表大会」の中部大会の審査委員として、EPO 中部からはESD/EPO 運営委員である杉浦真理子氏(株式会社アクト 代表取締役)を推薦した。
  - 12月10日開催の中部大会には、EPO 中部スタッフもオブザーバー参加した。
- 記者発表等のメディア対応**
  - 12月19日開催・信州の森・里山フォーラムの開催にあたり、中部地方環境事務所から長野県政記者クラブへのリリース投げ込みを行った。
- 全国・各地方とのネットワークの活用及び連携の確保・強化**
  - 全国及び地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センター等から招請のあった会議・イベント等(オンライン含む)にはすべて出席した。

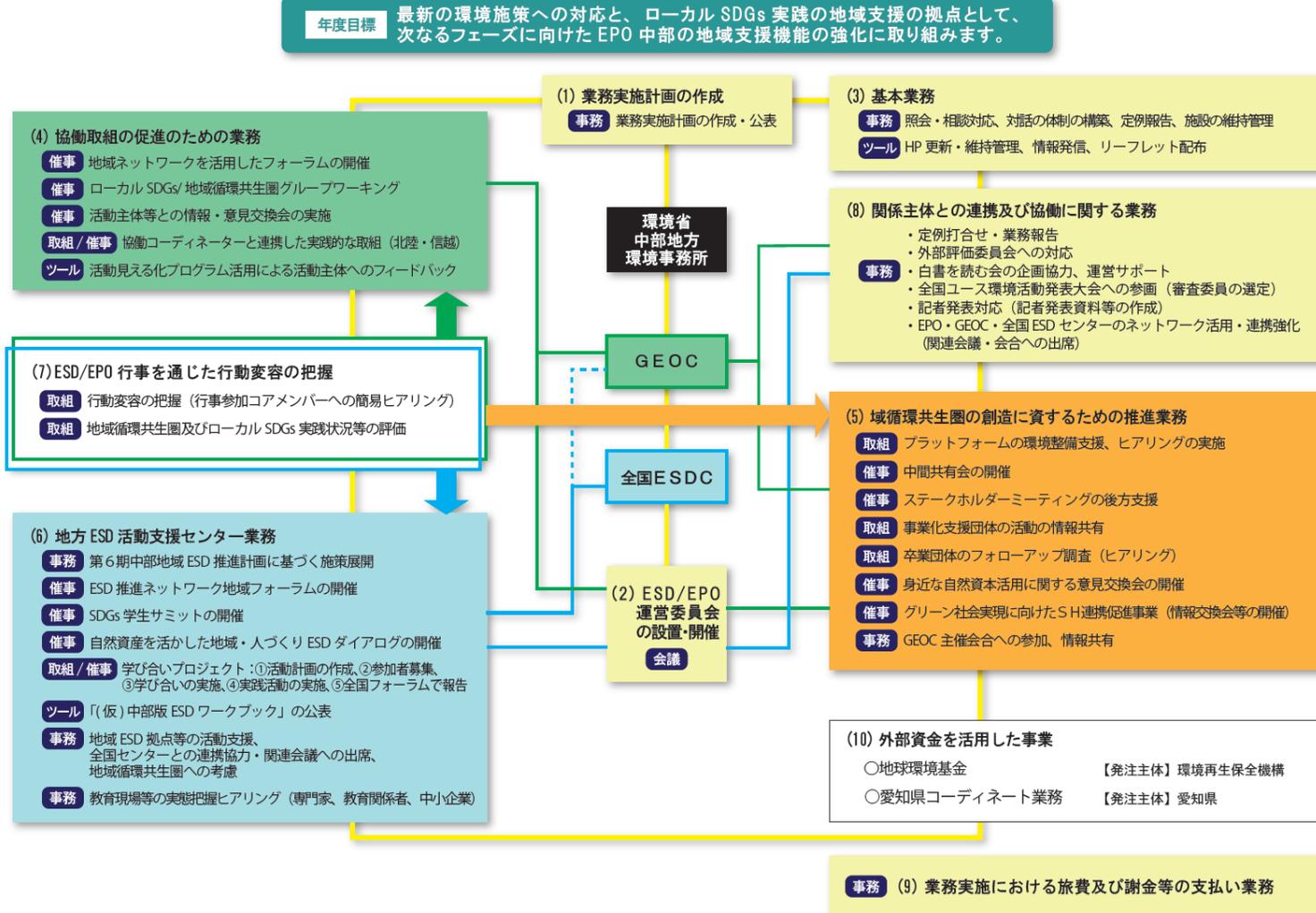
【参考】2023 年度業務一覧

中部環境パートナーシップオフィス運営業務 令和5年度(2023年度)業務一覧

EPO 中部/中部地方 ESD 活動支援センター

緑色：EPO 業務 / 水色：ESD 業務 / 赤色：地域循環共生圏業務 / 黄色：運営業務

※中部地方環境事務所、EPO は業務全体に関わる



第6期  
 目標  
 アフター・コロナ、地域循環共生圏づくり・SDGs 活用が進みつつある中部エリアにおいて、新フェーズに対応し、地域が必要とする協働・ESD・SDGs の実装・実践のための支援と、誰も取り残されないターゲット設定、EPO 機能強化の関係構築に取り組みます。